

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

観葉植物などに紛れて侵入したり、ペットからの逸出や遺棄で広がりました。日本の固有種で奄美群島、沖縄諸島の主要な島嶼では在来種として生息しています。鹿児島県では緊急防除種に指定され、指宿市、屋久島で確認されました。在来種のトカゲと異なる捕食者で、在来節足動物相、生態系、植物網の変質が起こります。指宿市、屋久島など、自然分布域である奄美群島以外の地域で見かけた場合には、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	有鱗目アガマ科	
種名(亜種名)	オキナワキノボリトカゲ	
学名	<i>Japalura polygonata polygonata</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	奄美群島、沖縄諸島	
県内初報告	指宿市では2003年、屋久島では2012年	
県内への侵入の経緯	観葉植物などに紛れての侵入、ペットとしての流通と購入後の逸出、遺棄など	
県内の侵入分布	指宿市、屋久島	
全国の侵入分布	宮崎県日南市、鹿児島県指宿市、屋久島に定着	
生態学的特性		
生態	食性は虫食性で、昆虫などの小動物を捕食する。昼行性で、原産地では落ち葉・枯れ枝・岩の隙間・木の根元に隠れて越冬する。天敵は猛禽類やヘビ類。主に樹上性だが、地上にも降りる。	
形態	全長約20～30cm。頭部・胴部背面に凹凸のある鱗が不規則にならび、鼓膜は皮下に埋もれて露出しない。四肢や尾は細長く、指にはかぎ爪が発達している。オスの成体は全身緑みを帯び、胴部は側扁し、頭尾方向に走る黄色い帯状斑を持つ。メス成体や幼体では緑みは弱く、胴部は側扁せず黄色い帯状斑も見られない。	
繁殖形態	一腹卵数は1～4個。4月～8月に浅い土の中に産卵する。	
生息環境	林縁部の日陰部分によく見られる。山地にも人家付近にも見られる。	
特記事項	日本の固有種で奄美群島、沖縄諸島の主要な島嶼では在来種として生息しています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来のトカゲ類と異なる捕食者であり、捕食を通した在来節足動物相、生態系、食物網の変質。
県内で特に予想される被害	指宿市、屋久島の在来節足動物相、生態系の変質。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来節足動物相の捕食。 ②飼われていたものの逸出。
3 対策	
オキナワキノボリトカゲを見つけたら	指宿市、屋久島に侵入しています。これらの地域を含め、自然分布域である奄美群島以外の地域で見かけた場合には、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。
見分け方	オキナワキノボリトカゲは、全長約20～30cmで、オスの成体は全身緑みを帯びている。メス成体や幼体は緑みは弱い。 自然分布域である奄美群島以外に、本種のようなトカゲ類は生息していない。
見かけやすい場所・時間	主に昼間に活動する。林縁部の日陰部分によく見られる。山地にも人家付近にも見られる。
防除方法	粘着トラップやペットボトルトラップが有効と思われる。
防除の取組事例	宮崎県日南市では、平成21年度～23年度にかけて、オキナワキノボリトカゲの生態や繁殖の実態などについて調査を実施し、「九州本土に侵入・定着したオキナワキノボリトカゲに関する研究成果報告書」を出している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30280.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 日南市市民部協働課(2012)九州本土に侵入・定着したオキナワキノボリトカゲに関する研究成果報告書. 日南市市民部協働課. 宮崎内山ほか(2002)日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京